

# 地名から探る名古屋の災害の歴史

2013.1.26(土)名古屋の旧町名を復活させる有志の会

愛知地名文化研究会 中根洋治

あし原：西区で平成12年に新川堤防が切れた所。隣は「こも原町」。対岸は清須市阿原（あわら）で芦原のような低地。

牛巻（うしまき）町：瑞穂区。精進川（新堀川）の渦巻いていた所（「瑞穂区の歴史」）。

大我麻（おおがま）：北区。「ガマ」は堤防が切れた場所にある池のことをいう場合がある。

押切（おしきり）：西区。水が押し切って流れる所。2008年8月29日の大雨で、市内で押切だけ車が浸水した。昔の笈瀬川（伊勢の神領を流れる）の筋。新潟県阿賀野市押切にもある水害を受けやすい所。

川中（かわなか）：北区川中・中切・成願寺・安井・福德町あたりは、矢田川と庄内川に囲まれていた所。昭和7年から現在のように矢田川と庄内川をくつつける工事が始まって昭和12年に名古屋市になった区域。

久地野（くじの）：北名古屋市。川の合流点を表す地名といわれる。大山川・合瀬川（木津用水）・新地蔵川などの合流点。新川の上流端。水が溢れやすい所。対岸は西区比良。

楠（くすのき）：北区の浸水危険区域。東海豪雨で3.8mの浸水深さがあった。ハザードマップでは洪水時の浸水深さは約4mという推定である。楠は土地が崩れるという災害地名の場合がある。南区の楠町の場合は大きな楠がある。

蛇ノ池：じゃのいけ。西区比良の付近にある池。蛇と龍は洪水・水害を表し、龍神は水神の場合がある。

天白（てんぱく）：緑区鳴海町字天白には天白神社があった（旧東海道天白橋東側）。後に成海神社の熊野日向社に合祀された。天白神社は水害を受けやすい所にある。水害の神様「瀬織津姫」を祀る。この字名から天白川が名付けられ、天白川が流れる地域を天白区とした。

岡崎市天白町も矢作川を締め切った所の地名で天白神社が氏神になっている。こういう天白という地名や神社名は三重県・愛知県・長野県などに合計600社ほどある。長野県へ行くと、山の神・地の神・鍛冶神などにもなっている。

波寄（なみよせ）町：熱田区の金山駅東側。住人の4人ほどに聞いたが、皆さん波が打ち寄せた所と聞いていると言われた。波寄神社もある（写真-1）。北側には「流町バス停」、「流町交差点」、「流町郵便局」があり一寸前まで流町であった。流町の地名は大波が来たことを連想させる。

波限神社：熱田区1番2丁目45にある神社。1610年、加藤清正は度々名古屋城へ運ぶ石船が遭難したので神社を建てたと言われる。この神社は昭和14年、愛知時計の建設のために現在地へ移転された。境内には長さ約120cm、幅90cm、高さ100cmの幡豆石があり、名古屋城に使われず残念そうであった。神社名は「なぎさ神社」といわれる。

幅下（はばした）：西区の熱田台地（名古屋城は熱田台地の北端）の下方になる低地。「ハバ」は崖を表す。

葉場公園：中区平和1丁目にある公園。「ハバ」は台地の端にある崖地名の一つ。現在では緩やかな勾配になっているが、昔は急な斜面だったはず。熱田台地の端。

泥江（ひじえ）：泥江町は消え、「泥江町」交差点名と「泥江町線」という路線名が残っている。「泥」は「ひじ」とも読める標



写真-1 波寄町の波寄神社

高2mほどの泥堆積地。液状化現象が恐い。

吹上（ふきあげ）：縄文海進のころ、海が近くまで押し寄せていたので、砂が吹き上げた所。西側の鶴舞公園は標高6mくらいと低い。大須の浪越（那古野山）公園も遠い昔に波が越えた所と思われる。

堀田（ほりた）：瑞穂区。一般に堀田は写真-2のような低地に土を掘り上げて田を作った所。湿地。

矢田（やた）：北区大曽根の北東で、矢田川の南側。八田、谷地（やち）、谷津（やつ）と同様に、湿地を表す地名。隣接している長母寺は昔、矢田川の北側にあった。



写真-2 堀田（大垣輪中、1956年撮影、「JCCA.Vol.6」建設コンサルタンツ協会中部支部）

その他、瑞穂区浮島町、荒崎町、河岸町、中区新州崎、柳橋（交差点名、バス停名に残る。柳は川を表す）、緑区汐田、緑区鳴海町、中川区中須町、野田（ヌタと同様な沼地のような地名）なども水害危険地名と思われる。池のつく地名も埋立地の可能性がある。港区や南区国道1号西側など、江戸期以来北から干拓が行われた。新しい埋め立て地ほど震災が大きい。

また、海拔ゼロメートル地帯は低地のために浸水し易い不自然な土地柄である。旧河道も浸水と液状化を起こしやすい土地である。南区と瑞穂区境界の旧天白川、南区の大江川、北区川中付近の矢田川跡、庄内川は大治町鎌須賀付近から蟹江川へ流れていた。戸田川上流ももっと大きな川だった可能性がある。

〈以上〉